



句尻弄

章なくして祇酒乃くくられぬ大也
物極奇せし難読集をよるに
此一局極たしし他をよる句を
自由ちまほしき原をいしは道ハ祖の
詞のそにかあしん古詩古歌 經新
ともや一縁子あふくふつし
やしくちもあふの句此切ふ
そらくを一二此鼓中つみ
神もともあふくしん鼓子あふ



しつゝ自然の合意するごとく
文句ありしをいふは一句千の
るものなるをいふ也

詩物

三十六番

肅山

飛螢我も体心ハ苦しい

晋子

かぐしけり魚ら良川原の

酒債すむ旦暮月もとく入る影棠

花の祀これ切溜乃 桶山

淋くも人かえりん刀持 晋

橋あり徒士ハハく社笠 棠

掛造り所を志望の浦あり也 山

籠も只鳴し 志乃 称名 晋

魚のくんとや野原に隠る住 棠

うまはしりも子恋のやう 山

山の神妻をたきり 用 晋

まらるるもや玉根乃 窮 棠

燦掃子笠も藪もくつし
赤丹母酒をこき茶こと
佐屋回りかひけしせいせの
四つ乃鼓い月のおほり夜
花の床三寶加持の行ひあ
笑大長を節乃果月
うちんあい忍入りかたと角螺
携るかたもくしもあるこの日記

山 崇 山 音 崇 山 崇 山

詫觸くうらも烏帽子引るき
あらしき山く仲妻れ世中
子杯己う十色も一茶と
その母や子みちののまや
数珠切つ三悪むいのほほ
酔し序山乃音乃何あ
ちり世と子志き舞の杖
ありか繁も肩の縫わけ

山 崇 山 音 崇 山 崇 山

月乃宿さうなを云うあ傷ハ
木取寄も世用み奈より蘇
小舟この御なくさこハ大舟
心つらふそあのみそハ伯母
亦賊の力をさうおの所化の時
あ子あも色れ魚上る舟
やふハ乃あをさうあを待志を
あこましくと春乃酒盛
葉 晋 山 崇 山 晋 葉

癸酉八月廿九日乃昼亡父
葬送の場あ崩心乃悲を
懐あて四生乃起あをさう 晋子
一 淋中 蛭とああも服以
とさふ母も 行 神 法 病
世の破第あさうつらあ
あはさうさああ乃酒
あ金とあああああああ
礼者のああああ雪汁

楽初もきこふくはる詠負る
大名持る畑はあふ
我世ゆる櫛のふまの雑司谷
茶炭りよくははあな
山家での遊行も習所をふさ
今産婦やんし猿の子
鳴るの声 嵐ましく古戦場
石地あふまを雪籠をふ

草種を藪をくらねる谷のあ
難の同を北井園とし
まほひある林雲はのくみ人
あふまゆるやふの編笠
七ツ年物持まうまを
仕向をぬき秋ふとく
花乃存子日るし
海苔をかりきる瘞切を嘯

目く死耳く死くられぬ
 承は免しぬ 以成をあり
 此後ほくひのこを思ひ
 世越さむくみ邪にお服是
 立はて傍房多ふ中子小紫垣
 何み追きし井へある翁
 物すとおふあわ所乃 男ぎき
 おくみほん平仙の報

あつらふとみちかき
 四度の仕着せ振るる
 鄙くを舅でらとらひ
 齋トキのくをみひくき
 凡呂箒しりふくし月夜
 紋乃ある好もいふて此
 芋の根みちいふく地のを付し
 穀生石法くふく

當分の園とるしり 菰^ヒし
 猿^ノ森^ノ片^ノしりや^ハ茶^ノ餅^ノを^ハ買^ハ
 何^ノか^ハ一^ノか^ハ今^ノの^ノく^ハや^ハ百^ノの上^ノ
 こ^ノを^ハ僧^ノ都^ノの^ノ足^ノす^ハり^ハ乃^ハ濱^ノ
 新^ノけ^ハく^ハ鯨^ノの^ノ干^ノ物^ノは^ハ多^ク難^シ
 牛^ノ乃^ハあ^ハら^ハう^ハを^ハあ^ハく^ハ夕^ノ月^ノ
 漸^ハく^ハ二^ノ所^ノ持^ノ現^ノの^ノ藪^ノ乃^ハこ^ノ
 ち^ハ一^ノろ^ハ是^ハを^ハ餅^ノの^ノ白^ノ

佛^ノ地^ノハ^ハ亦^ハ化^スニ^ハ任^スし^ルを^ハ乃^ハ時^ノ
 二^ノ本^ノ一^ノ株^ノを^ハ入^ルあ^ハん

知^ハ見^ハ朋^ノ友^ノの^ノこ^ノを^ハあ^ハら^ハう^ハは^ハ
 衰^ハ老^ノの^ノ身^ノを^ハあ^ハら^ハう^ハは^ハ
 了^ル日^ノ入^ルり^ハ白^クあ^ハら^ハう^ハは^ハ
 誦^ハ經^ノの^ノ存^ノ追^ノを^ハあ^ハら^ハう^ハは^ハ
 を^ハ真^ニし^リ此^ノ株^ノと^ハあ^ハら^ハう^ハは^ハ

東順傳

芭蕉稿

老人東院を移氏より〜の和子
 江初望田乃農士竹成と稱ス移氏
 とらふそのち晋子り母〜とらふ
 そのありし〜七十歳少い〜を
 の秋乃月夜病る枕の〜を極多〜
 花鳥の情あを悲〜と思ひ限
 どの床れゆ〜と云〜并れ〜を
 孫よらしし如の向をた〜し大
 榮成典の〜を〜隠る〜
 時醫をを學んて光〜乃産〜なる

何某の如〜俸祿を〜金魚
 醜塵乃移す〜と移とも世移
 ち〜名〜の衣を〜杖を
 携て業を捨つ既乃六十の〜
 なり市店を山移〜の〜梨心
 と〜を〜ん机を〜
 十〜其筆の〜車〜
 こ〜上り生を〜
 移〜是心〜大隱朝市乃
 入月乃移を机に四隅を

行草躰 二十四句

悲悲鳴

晋子

ちんぢいひくカハル蝦カハルこころある流うお
 並カウを色鶴乃おのよの
 春荷とへのの痕んかりひつる
 おれしを張けと焼物
 七食めとせるを志るちよの月
 ゆくこころのくしん葬乃とを

氣子つきて小保濁る水の昏
 卅日りあると家を乃親
 我恋る人の内儀をわちりや
 湯豆腐乃湯のさあつてお茶
 草枕おの寐やうをおもひく
 伏見乃時所を家くさして
 炎昔こころの風土記のをつら
 芋よしてゆる城中乃畑

川をり川極と一衣子叫小猿
 温泉入る海に山るる月
 むの宿ひつと酒市を拍カり
 菜タウあらしらるるかりし菜の味
 ち
 もの目法十里ハありく登モトイるこま
 をあいの藪ノよせさるる妙房
 手たらしきも箱子餅を入して
 孫をひきびし息笑れ親母

楽國ハフ長泊りもなすけ
 朽のいましはあぬ乃月
 吹出ま麻しらるるいふ笛の命
 つらひやうらよ泥陶カ乃酒
 病中もど乳母の尾子遊こら
 琴の下極しし向を入ん
 在斯こもよふしあは酒飲の時
 市女のらるる出茶をじり

のちをる車の後く牛の舌
切を突せし鮎形付ク
花飾見くを枯く面をすめじ
傘ありてゑむむ 春玉

五月廿八日

は芽の糸々あつらへ

あつらへ

あつらへ

晋子

ゆるゆるや蜜ちいさな蜂の糸

松の百枝めけし涼い 柴雲

扇の扇子ひらひらつゝ夏衣を 介我

二つあつらへて 蛇とむめる 吾

あつらへ刀の多む月形痛 系

衣もさによふ旅の疾く 我

糸の菊の糸はゆるゆるの子 音

包とをとりけし 饅頭乃笛 系

此よりつとへし狐佛事を乞はしし我
 和田恩初智^タ知しありん吾
 炭賣の^ナ初^ナ知^ナを^ナ舞^ナて^ナ系
 毛をむし^ナは^ナあ^ナを^ナ活^ナか^ナの^ナ雉^ナ我
 と^ナ初^ナも^ナ籠^ナく^ナ百^ナの^ナ茶^ナハ^ナつ^ナり^ナし^ナ吾
 外^ナせ^ナし^ナと^ナし^ナる^ナ花^ナ乃^ナ海^ナ乃^ナ系
 茶箱初^ナく^ナも^ナを^ナし^ナ恥^ナし^ナた^ナ家
 乃^ナを^ナ女^ナ房^ナあ^ナく^ナ唐^ナ紙^ナ吾

神の月十年あはれま^ナく^ナ系
 片^ナノ^ナ器^ナく^ナ錫^ナを^ナお^ナ祭^ナ海^ナ打^ナ我
 以^ナ比^ナ乃^ナ鷄^ナけ^ナを^ナし^ナ茶^ナの^ナ湯^ナえ^ナ吾
 店^ナ流^ナの^ナ尼^ナ乃^ナま^ナあ^ナは^ナく^ナく^ナ系
 我^ナく^ナく^ナ位^ナく^ナ物^ナし^ナ小^ナ船^ナ以^ナ我
 我^ナく^ナく^ナあ^ナの^ナわ^ナる^ナ鳴^ナ費^ナ吾
 黄^ナ鷹^ナ乃^ナ鳥^ナく^ナあ^ナま^ナり^ナて^ナ松^ナ乃^ナり^ナ系
 以^ナ中^ナ燃^ナし^ナ醉^ナさ^ナあ^ナり^ナん^ナ我

結成の地うち好し以成る
 車成ぬいて御す材木
 白き地の裾を飾りぬ下谷
 占ひのそと也 神子の宿札
 法持を五等と單^{ヒトヒ}をいけて
 お海とあつらふ志ある吹
 旬^ウの夏しつゆさほぐり
 じやぬまぐく茶味にわさ
 晋 象 系 晋

をのらふて酒の心脈ハ飛を川
 世万此景やちりし我山
 針^{カキ}映くむを線と六花ある
 ちを成新まぐく月の鶯

六日 八月 慶菴

台中

十三

聞指

背敷子玉散こ見ゆる糖りけり
 散くく居く遠く灯を垂音子
 糸襖邪広巾着さそくろく山蜂
 蝶のゆく糸を酔し押ユル指
 音の月既乃額のおわんこ音
 沙路水そくおくほさん 塔

川の氣味もあは悲し風本此山指
 何もした音乃豆こくゆる音
 日のよせと蠅のへある糸は表塔
 就乃穢みくもやけく乱指
 水をうららくとあゆみ音
 基骨れ指をたけけく壘塔
 一帯を如賀音人のあけりし指
 かりての下えや膏のるは月音

交うてやうしにほろねと老の骨指
飯釜のつるふ白山の温泉坊
静ある猿の鼻のやうに音
脱しるるあふ蓑の松明坊
大枝もむ盗人もほくみり坊
菓うしむらうしある感の子音

壬申十二月廿日即興

芭蕉

赤らりてむ入探さぬつらふ
踏こむあつらふつる後者彫棠
目あしあはかりなをりて音子
お磯のあはりりて音子
お月つらあはけしんあ音子
出代にこ新とせり音子

浪杏

剛中成さぬいひる糖の香棠
育てやあまの窟より乳音
反もよふ菜穂をひて苺のむ杏
茶袋煮しとん泊帆め茶寮蕉
下法のふ好乃れとくまのりし山
つらと猫乃れ力をひちり来し隣
むつや謀めしとん楓の良棠
硯はなまこひやせう海、
晋

長の由窓のくさあしあはれん蕉
こすのみをきしとん唇一隊
まよひと嘆きたる花鈴の月音
らんといまいさく遠サカレ 疫棠
愚なる和ももなを所のはる杏
きみよめを揚る箱戸梅山
山もれ月もれとん比々志つらく蕉
移りつらく花丸合歡の下音
音

山
けむらひ焼く床のいほり
思をせ再び昼乃夕依杏
気さしあへ曹洞宗の寒うり
焦人のあつたていへくを焼棠
足ぬあのみさへを志を志る能
すさすふらう次傘蕉
歌しよ星ハ鮫けいるの棠
雁山

松茸を近江海うへは山々
そくそいを子ハアくを杏
老ハ海邊よりおやわり蕉
むか名ありとこ楊貴妃棠
付けし中してをわく桃乃色山
こころの乾乃誇く之絃隣

カ州

其

六月廿四日真

結^フ庵^ラ河^ハ邊^ニ

少吟

舟^ノ裸^レ金^ヤ峯^ニ

柳^ノ川^ニ飛^ル蟬^音

百草^ノ肩^ヲ花^ヲ散^ル花^ノ徳^ニ

柄^ノ散^ル花^ノ散^ル花^ノ吟

罐^子乃^肩を^散る^て散^ル音

金^具土^を散^ル濱^縁徳

物^ノ家^ノ吟

白^紙の^け乃^蓋音

久^枯も^壱岐^松寺^徳

星^カも^海の^雷吟

恙^チも^まの^襟も^み也^音

見^テ投^ル之^ハ用^ノ切^帝徳

お^のを^も川^簀垣^吟

赤^クも^お摸^ル也^吟音

下あ九言のそゆるん 承老し
 志やむろをそゆるん 承老し
 食のあき 志賀の山 誠日も 雪音
 とも日をさうゆるん 芝のあ 紀
 雉 祢らよ 築あえの 楯さ^{タテ} 鳴鳥 音
 靴箱ひゆるん 尺さ^{タテ} 鳴鳥 音
 近^{タテ} 子ハ 乳母もゆるん なる 傀儡^{タテ} 音
 お暴^{タテ} 子ゆるん 次^{タテ} 交^{タテ} 乃 相殿 音

焼^{タテ} 木^{タテ} 水^{タテ} 垣^{タテ} の ぼ^{タテ} 子^{タテ} なる^{タテ} 音
 病^{タテ} を^{タテ} 上^{タテ} くれ^{タテ} 事^{タテ} 嵐^{タテ} 出^{タテ} る^{タテ} 舟^{タテ} 音
 僧^{タテ} を^{タテ} 皆^{タテ} 耳^{タテ} を^{タテ} 寒^{タテ} う^{タテ} 舟^{タテ} 音
 粉^{タテ} 河^{タテ} の 鞆^{タテ} 鼓^{タテ} 音^{タテ} 音^{タテ}
 怪^{タテ} くら^{タテ} 卵^{タテ} 乃^{タテ} 目^{タテ} 利^{タテ} 翁^{タテ} 音
 碑^{タテ} くら^{タテ} 力^{タテ} の^{タテ} つ^{タテ} くら^{タテ} 音^{タテ}
 あ^{タテ} くら^{タテ} 人^{タテ} と^{タテ} 階^{タテ} 子^{タテ} 持^{タテ} 音^{タテ}
 け^{タテ} くら^{タテ} き^{タテ} り^{タテ} この^{タテ} 心^{タテ} 音^{タテ}

白中

惟子トクヤと云々ゆるわの音
^{ハナク}たある餞もこれ同じまの
初軽きまあてハ賞氣し
世々もわろくも木玉場の歌
阿のやうな女子成て花の陰
山吹おもしろくさくの音

其

三子草一菴をさそく北の月
おもしろく雨とけし花とけし

湖月

雨乃脚 日半^{ハシタ}あはれやまをたぬ
^{イサ}桶の蓋とてぬの 荷 素牙
^{イサ}最椿とハきの木槌をうらひて紫紅
新うりあふる京昆布の色 音子
^{ツク}粗摺もあし女ありし月乃庭 行
^{ツク}標乃 石北あはれぬのぬ 月

白中

此淺を推し心かそり
焼ヶ山越へち力をし白き
下糸の葉をくく浦之り
揮をまらるも恋のある
一詩ハ初を乃勝手志つる
膝立とあし紙をくく
甲橋とくくおきを冷の森
馬方此白く茶ある酒
月

所のおも枕をくく人か踏
鳴乃目くく星の月記
難みある蘂の松花柳
其をくく井小坊の杏
春^名のや海り碁石のくく
下着をくく百ある脱^カ
市切のみのもさ飛しよ
くく醒し誤ッく面^ツ
月 音 紅 月 手 取 音

向あくと追跡舟乃宗いとふ
 一向宗乃 南无阿弥陀佛 音
 借素袍ふよあしと安し
 法後所免の擗りく門 月
 切飛治とめふ中たの部乃 音
 根子を見とと妻帯此危徒 紅
 十八がすまふよをぬくむと 月
 木曾木つるゆ方月の川音

百姓の位どいそ女乃和 音
 か行治舟のく乃世中 紅

めとれと宿しそ大り
 再々といたる廿二句
 一と一と一と

花を聖天所^四の^心晉
淨福^福くく^く幕を^通以^以永
月雪子^{サシ}切^切る^る察^察位^位有^有
園栗^栗り^り遊^遊山^山絶^絶り^り
二^二依^依川^川拔^拔ち^ちま^まの^のあ^あも^も我^我
る^る中^中に^に遊^遊て^て迎^迎に^に盗^盗人^人晉
大^大考^考の^の川^川幅^幅を^をゆる^{ゆる}向^向人^人風^風叔^叔
一^一小^小を^を焚^{タイ}て^て仕^仕ま^まふ^ふ松^松方^方晋

約中

三五

此^此京^京城^城を^をハ^ハス^ス深^深山^山晋
め^めれ^れと^と用^用え^えれ^れ骨^骨を^をと^とり^りむ^むれ^れ家^家
を^をや^やる^るも^もり^りが^が綸^綸子^子雪^雪
柴^柴垣^垣も^も老^老乃^乃碎^碎狂^狂叔^叔
ろ^ろろ^ろれ^れの^の替^{カハセ}と^との^の大^大晦^晦日^日永^永
と^とち^ちは^はを^をと^とり^りも^もり^り晋
聊^聊や^や湯^湯女^女泣^泣き^きて^てあ^あら^られ^れ狂^狂叔^叔
狂^狂詩^詩乃^乃辨^辨り^り狂^狂人^人の^の日^日雪^雪

あけなる瓢箪の履ケタりくびらり音
田の痛し鹿ハぬきてくわし我
心敬の長旅去くくしりる雪
赤糸の芥子寒は是もる叔
下市乃とあり蹴立る甚盛秋
約の新緑の鈴の音は晋

いりこつとみけのまうけ
こころを屏るるサニ句

寒玉

あせハ陰右もあせいとれり
猿戸のきこたを乃菊 桂花
回つとさ月乃あねを呼ばし 紫丸
物のとさうあをうけし并に 秋色
色乃葉の眠るるよる海し 音子
功者乃基げし咄たるを友 玉

雨に旅りをはらへてきて今も
男をたもつてなくして長道の遙を
あふけはるる

九月六日あけして江戸をうら都をこれ
りね送りやまね結柳の所あり

そ途をみら千秋乃秋のせ岩翁
あふけ送りてしむ初み糸亀翁

六郎のわりりして

草あつ縮干繩の——つら横ん

新根崎めし

杉の上りし三ぞみえまる村抱 晋子

新のそ尾上の杉をともあましり
りあゆりこもひかあふる

三鳴あそ旅りの重陽哉

門酒やるをのちふの菊を形 晋子
乾新やぢる新し礼するさくの酒 岩翁
さくゆら畠の中乃少あまう 尺草
万摘り所のまじや旅を形 亀翁

白下

原回頭

船乗り一々 飛つるを 富士下風 音子
つゆと常 雪も面や 水乃さき 音

つゆと川渡航

不たや 笠赤蜻蛉のわらわ 撲ル

清見

あつたふ乃 塩をさき 萩の色 岩露
ほの 鶴のほるも 舟にふらみく 尺草
志つるい

因字をよみながら 同く山脈の 尺中

うづの山

神もくく 鳥知や 清ん草れる 中
少の 社の襦も うつこつこつ 音 撲ル
所所 柿をきつて せきうつ 山 尺中
うづの 社も 餅くらふは乃山 音子

法衣中山

草鞋と 推さうすの 杖を 尺中
赤松と 木につまき 山の 音

乃後みみ紫くくこ小舟の山 晉子

十二日けけ何より新紫の山入

森ヨリ之くく 犬居 新紫

神すり西息杖てきる松の尊 松翁

あしきく此廉遠ふ山金子蟻山 中

蝶の葉く呉柿くく山あふふ 尺中

合羽きく廉くはくくや新紫乃 晋子

四十八階とらふく名のこくは

いさくともいさく八十余階と

嫩乃敷やあひ谷は谷のあはる 尺中

せきせいしや垢離場へたる岩付 換儿

新紫祥定下山の時

本はあしきく所紀の上包こする

かきく杖を投するありは 晋子

ま各川より毛籠へ下るや

山風やあしきく山んふ川 岩翁

の流瀉巻くやらく新紫 換儿

大く二切所といふあきく山高

鳥不巢水清魚不住

あつのはらや耳あもつら七ッ釜 松翁

二役川 推河脇の所社を切所と

お擡と一短はさりり濁の色 音子

向戸川はけりおぼく清立 中翁

かどま舟はつくとあつと

我道や勝るまをさるあはる 尺子

十ら世 瀆松めく

内玄園 赤をのまやうとと 小翁

つられ月魚を居るん窟とつと 松翁

十ら世出る乃松やあけのる 岩翁

ほ乃く味方う原を一月うな 尺中

いつとつとをさるあはる

向の月わやとれく江戸のを 音子

熱田奉幣

芭蕉る甲子の始りくハ社大ニ

破を築化をくよまをあひくあつと

くくこよ鏡をけりて小社の魂を

志る一葉に花をよみしつゝの秋を
念ふよもよもしのよののののの
をよもよもよもよもよもよもよも
とくせしる興廢はあり甲成り
かゝの造業ありたにみせし

文くとも縁空の軒や杉の丸音子
多の目やあつてこゝしむら秋の月する
まさのよあり帯おろし梅根れ月岩翁

津島ゆき天王

縁乃稻浪五糸ともの色守とる春中る

十六日くはふあうく

は魚々々々の片^{サイ}崩りいせ乃くも 摺儿
大魚乃くくくくくく 種昔片 尺中
あうくくくく 蛤くくくく 鉛の酒 する
津の泊るく

伴勢乃や 往來の思 依りう秋 松翁
世の秋や 女の旅と 伊せくくく 寸春
いせ物乃 秋の自さくく 氣流重 尺中

約下

六

きし川より

むしよよ祭主の興を遂りしより 晉子
外宮 止くぬまぬま

日と照る古殿々雪の積り 同

新葉の春法ありし白石 岩翁

夏より冬の水や種をつむ子等館 尺中

唇乃色く寒く宮のくを 龜翁

能く御依いしくくを 米松翁

内宮 浮名ノ屋よりく入て心す

きり立十鈴川より遠くくおス

乃の秋や赤ももあいる妙物山 晉子

ありあるあの新れく 横儿

廿日 於福井若兵衛大夫御師家

御神樂 謹上再拜

神の秋七千ありし 山とみ子 岩翁

四季はあゆむ気いなりし 尺中 龜翁

秋ありし 尺中 龜翁

秋ありし 尺中 龜翁

御神樂

謹上再拜

烏帽子のちのちの柳の少少つと
たぐや小刺あつと菊の屯
岩翁
音子

廿一日 二見 乾態

糸糸もるん河垢新ら齒の糸
ひやうりに河川の川流や石と岩
岩のよとくはゆるき一花為
ゆらりや誓の力を子に半島
秋の和風を浴^{トヒ}を衣一おこ
誓の子と一遊^{ヲヨキ}まげり音の梅
岩翁
音子
拈几
拈几
尺中

河川の流子あふいとつく

濱蔭とくはくまこまん群心
みそ一乾態の柘と云れり
真志とめ坂の傍く流糸のさ
は切とみそつとあまの山
宮河の上の酒送りせしる

さうえぬまの柳のさうと
は花をさくさくさく
岩翁

根を石とくはくは河原の井筒の
亀翁

まをれと一花あふ時の母菊は 音子
角石を拾ひのしに 鮮菊は 尺艸

廿三日伊勢ヨリも谷詠く出た田丸ヨリ

拾物とて守る山嶺此の秋スル京の
とてとて一りりるを奇絶の地と

山畑の草ほるあやしく法持ト 音子
法持のいさぎ枝の住るあやまき
焼酒や所吹くふる山下は 尺中
こちり一をくつるを寄置し 稲遊 様

けつらんおをあそ新たもこ まる
まをれと糖アく畑のさりか 岩翁
川草のまてはるや谷のあ 音子
一ツをそあくくくしるかした まる

真噴野店無肴核薄酒堪結

豆荚肥タリと固あ家り句ッ感ん

足あがるまうまよさげと新角は 音子
さす夫のゆさ火を撫くくおのさ 尺中
山つてく目の島の虹川板の経 巻

初彫と輪 在原寺

抱みたる家の多きこゝろつせ山 音子
つらもの杉や根をうり昌るこゝろ 春
らせ籠りぬの縁やこゝろ 酒横儿
けお柴并糸 けうも谷の繪巻 尺中

大和橋とてこゝろつせ山

泊船めと柿の志のこゝろつせ山 音子
おのゝろ初彫の下 けうはのむ 松翁
つらもの杉や根をうり昌るこゝろ

日の月みせ矢の枝もてりし松翁 音子

光の皇后の大ゆか金

虫乃のゆか草のあゝゆか 春
大佛乃ゆか肌のおや日のちくり 尺字

廿八日 都をさ出る

いれをこしと寝る 岩翁
音子 在原寺

少長つらもの杉や根をうり昌るこゝろ 春
おのゝろ初彫の下 けうはのむ 松翁

小松教法上人のまのつらさ
松法の硯あり箱の上へ下へ歸と
あふけりるさるる硯の形う
いつらへ似るゆへに

松法乃硯^{イキ}下へ息を^{イキ}下へ
ニとや^{イキ}さみりしげ「薦の房」^{イキ}まある

多武峯

下^{イキ}地を^{イキ}新色^{イキ}峠の^{イキ}あまら^{イキ}同
と月^{イキ}戸^{イキ}櫓^{イキ}も^{イキ}あまら^{イキ}水車^{イキ}尺^{イキ}神

案内を^{イキ}すあまら^{イキ}と^{イキ}輪乃^{イキ}月^{イキ}岩^{イキ}翁^{イキ}
ひ^{イキ}り^{イキ}し^{イキ}ら^{イキ}れ^{イキ}と^{イキ}端^{イキ}の^{イキ}近^{イキ}た^{イキ}る^{イキ}り^{イキ}音^{イキ}子^{イキ}
下^{イキ}る^{イキ}れ^{イキ}を^{イキ}み^{イキ}と^{イキ}る^{イキ}や^{イキ}松^{イキ}の^{イキ}月^{イキ}松^{イキ}翁^{イキ}
秋^{イキ}の^{イキ}日^{イキ}の^{イキ}あ^{イキ}る^{イキ}も^{イキ}海^{イキ}と^{イキ}見^{イキ}乃^{イキ}棠^{イキ}尺^{イキ}棠^{イキ}
清^{イキ}涼^{イキ}よ^{イキ}る^{イキ}松^{イキ}の^{イキ}神^{イキ}や^{イキ}苔^{イキ}の^{イキ}色^{イキ}き^{イキ}る^{イキ}
あ^{イキ}ら^{イキ}は^{イキ}ら^{イキ}り^{イキ}日^{イキ}や^{イキ}井^{イキ}筒^{イキ}の^{イキ}松^{イキ}丸^{イキ}を^{イキ}横^{イキ}几^{イキ}
僧^{イキ}ウ^{イキ}キ^{イキ}乃^{イキ}志^{イキ}つ^{イキ}る^{イキ}よ^{イキ}向^{イキ}ふ^{イキ}尾^{イキ}乃^{イキ}子^{イキ}
春日^{イキ}回^{イキ}舞^{イキ}の^{イキ}ま^{イキ}人^{イキ}連^{イキ}ぬ^{イキ}女^{イキ}く^{イキ}ま^{イキ}の^{イキ}
志^{イキ}く^{イキ}成^{イキ}乃^{イキ}刻^{イキ}を^{イキ}限^{イキ}り^{イキ}し^{イキ}は^{イキ}る^{イキ}こ

今幾日秋の長旅を此の山 音子
日々山々遊子の灯笼秋のこ 岩翁
御供齋子猿も菓を運ばり 音子
心 陰あむるや片繩棟 横儿
浮野ちねまへ向ふふと山を

物み石乃やまの事と志の爲 音子
よの根を竹や小麻の角の除 松翁
二月堂の七日割食好ひ者あり
屏風行り思ひてサシ入声

増那野乃古松よ

づふぬまの松を身を流はくは 横儿

廿九日より一乃山あり白き山
重り煙る谷をうつくしく山々の家
ゆきやちいさく西に木を伐れ
音子
の底よりこころ小寒を鱗盤石と
ゆきやちいさく

音子の城乃寒さより一の山 音子

目はうり何せもあめがしれ山まゐ
あつたてはく色日くをまて 横儿
あつたてはく色日くをまて 岩翁
かあちがー 體乃真しはるる 尺中
世をまて ころひるをすいあつたて

よもはら新しあつたて
あつたてをまてあつたて

新設尺内見所也 九月 吾子

西河のこころ

三尺の長をまてあつたて 同

あつたて何と目あつたて 吾子

十月二のこころ 山上世をまてあつたて

小六日 吾子の世をまてあつたて 岩翁

あつたての指目 吾子の世をまてあつたて 尺州

院をまてあつたてあつたて 龜翁

つゆあつたてあつたてあつたて

あつたてあつたてあつたて 女人堂 同

井邊は山のあつたてあつたて 横儿

卯塔のあつたてあつたてあつたて 吾子

葉あみぬの宿中へ

戸をくぐりて 楮うつ 色あはれ 尺艸

糺の川 いづれもきり
こゝ丹のそめこも

ふつろ弓矢をつつ 水やみづの月 多子

船路の歌をたしむ世はゆるが みる

和まうのうへ 吟上

なまらとて千をの 末磯をよ 岩翁

かきあてて 志あつて 藤をき 横儿

浦の波 紅と弁も くらひ 尺艸

おいつろ けをこ ぼけおし 男は みる

むし島あめりて

片るち ぬくや 悪く ちあめり 晋子

帰し

和まのらとて かけわの月を みる 同

葉あみぬ

おぬり 歌をたしむ 世はゆるが みる

一葉の 歌をたしむ 浦の波 横儿

かけわのらとて ぬくや 悪く ちあめり

うまかき魚のその従者なりつらき走
つおく力を添くことなみけさく

鮎ひらく〜魚のその網川魚 音子

きりのみえは魚をすむを

おとらり〜小朝つらし網子の魚 龜魚

網とせ〜鯉とあはをさくおせり 松翁

羽形〜うけわ乃浦戸磯ゆめ 横儿

〜この魚も寒〜おとけり海苔色 岩翁

網を〜く〜信何と〜ら磯魚 尺神

住吉奉納

昆布〜戸の魚を扶老の魚翁 岩翁

し女子の火流をさる神樂外 龜翁

木〜し戸給馬子かゆる帆子 横儿

お船やあま心乳をさる木船 尺州

草のなまを〜あがり信と〜あめ海 音子

十月十一日邑崔翁難波子一返局

乃〜し〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

旅も子存るゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

此一帖者龜翁旅泊之日記也
初而有遠遊之志故重父子之
信合朋友之歡共祝於神社
嘗敬祀佛圖而名境務樂所
往所至之幽懷殆不可言京洛
歡遊之間冬夜對酌之暇令
校合吟了則号隨緣記以而
以負句見茅集後
晋子

句見茅追考六格

○禊 句

泥肩く牡丹の穠や初くく色 曲翠
影くく影くく影くく影くく影くく 柴栗
△月ある石部の山く凡く帯色 松風
くくくくくくくくくくくくくく 暮子
地くくくくくくくくくくくくく 棧一
蘇州のく心くくくくくくくくく 山蜂
一ッ所炎有くくくくくくくく 艮 黄山

よ
農
夫

ののろくろをよめがふる 茄の糸 為有
 藤の涼やけりさ川さのく人 思演
 傘ししと流るる 雪 弥子
 粒をさきよめひさしと 山さく 巴水
 糸ひくしと糸よのほ 杜母 許六
 神鶏や沖の釣場を二百尋 園指
 けりあて餅の尻より 餅 餅
 淋しとやわらされ 夏の鳥とをん 山峰
 ちりしとさきよめさくろくろの糸 杜若

夏深のあさくろくろ 五月 野梅
 ちりしとよけ大はの車 園の糸 介我
 雨をたしとよけく 庭の糸 岸口
 うくひくすや 庭の糸 稲 寺吟
 あつくと 琵琶の糸 日と初雪と 山子
 春の葉とひくすや 庭の糸 桃都
 飛ぶとひくすや 庭の糸 嵐水
 庭の糸とひくすや 庭の糸 素牙

除^{ノケ}そのくぬくも嬉し盆^{ハシ}志^シ人^{ヒト} 朝三
あまんとつら^{ツラ}白^{シロ}子^コ信^シり^リ二番^{ニバン}風^{カゼ} 湖月

国月を

はれ^{ハレ}る^ルは^ハや^ヤ ^{フタ}あ^アら^ラく^クは^ハ田^タ原^{ハラ} 芳山
葉^ハら^ラあ^アの^ノ白^{シロ}を^ヲす^スく^クの^ノ印^{イン}を^ヲる^ル 今我
又^{マタ}立^タて^テは^ハも^モた^タふ^フ人^{ヒト}の^ノ胎^{タマ}を^ヲり^リ 寺吟
は^ハち^チて^テ蝶^{テフ}を^ヲ食^クま^マ下^カ戸^ドを^ヲあ^アら^ラる^ル 芝筵
寒^{サム}菊^{キク}の^ノ内^{ウチ}を^ヲう^ウめ^メる^ル 雑^雑子^子か^か 湖^湖風
熱^{アツク}門^{カド}や^ヤ 徒^徒ら^らく^くけ^けし^し 山^山さ^さう^う 琴^琴風

○新句

老尼

を^ヲふ^フく^クの^ノ思^シひ^ヒは^ハく^クも^モ 光^{ヒカリ}系^{ケイ} 松^{マツ}吟^{ギン}
あ^アら^ラま^マや^ヤ 白^{シロ}も^モみ^ミま^マに^ニ虫^{ムシ}を^ヲり^リ 虫^{ムシ} 家^カ袖^{スリーブ}
あ^アま^マら^ラね^ネや^ヤ 神^{カミ}も^モは^ハや^ヤの^ノ白^{シロ}は^ハ 社^{ヤシロ}色^{イロ}
秋^{アキ}假^カ治^チも^モま^マて^テ成^ナる^ル色^{イロ}舎^ヤの^ノ心^{ココロ}を^ヲり^リ 思^シ演^{エン}
あ^アま^マを^ヲま^マて^テあ^アら^ラく^クつ^ツる^ルと^ト 郭^{カク}云^{クニ} 安^{ヤス}之^シ
垣^{カキ}ひ^ヒと^トあ^アま^マを^ヲり^リ紅^{ベニ}を^ヲり^リる^ル 曇^{トモ}羅^ラ
七^{ナナ}夜^ヤの^ノ花^{ハナ}の^ノこ^こも^モや^ヤ子^コ指^{サシ}る^ルを^ヲ 智^チ月^{ツキ}
な^ナは^ハら^ラま^マを^ヲり^リる^ル ^{カサ}意^イの^ノあ^アつ^ツか^か 許^{ヨリ}六^{ロク}

みのあるさ 咲てもはらうはのむ 紫み
あきのうらうのうら 刺 菖草
きものんちうのうら 小せの宿 撤士
うらねのうら 何やてりまこ 彫棠
掛物やあはれ ぼし 蚊の 梅葉

うらねのうら

きものんちうのうら ヒトエモ 衣裳 揺ら

うらねのうら

御所と成れ けし けし けし けし 野梅

けしと けしと けしと けしと 玉出所 神叔
舟とく小ねと けしと けしと 一雀
帯とけしと けしと けしと 沾徳
窓とけしと けしと けしと 隣より 暮子
きとけしと けしと けしと けしと 桂花
けしと けしと けしと けしと 窓の 氷花
けしと けしと けしと けしと けしと 百里
けしと けしと けしと けしと けしと 柳玉
けしと けしと けしと けしと 東水

御所

九

蓮のまき成 田んは付ふるあゆ存 祐徳
うらふあいのつよしさるはる楚か 神叔

音子も月のつらうをうけし 孫の
さうりやとせのうらうをうけし 送り文

名月を 素名も二里もを遠 叙述 園指

幻住居のつらう

石山を指のはるやみこり酒 曲翠
あゆみ押しやれりう 並出 冠 百里
かへふん船々 鶴の和加城 肅山
あゆみやいあを安房の舟使 暮る

○清句

雨桂芭蕉よのりてくまのきく、音子
やあ入のるもものこまきも 晴羅
まふくみくつるも紅粉のまゆ 此君
交を嵐蘇のまゆも小梅か 秋色
あし麓忌よとまあく 菊の露も 梅葉
権佛や所し並あつ井戸の金根 曲翠
あしやあふのあつて極くぬく 棄捨
おりのつづきつるも 確のな 尚自

肩衣中ひのなるもを旅 旂 山川
いゝくかきおろし流るるは水 明月
捨まのよき名の唄乃をくまを 許六
縮のく何まうらんあまのを 含棘
夕のゆやけり湯あまを 石尾 角上
飛石乃ちやあまんのむや乾 介我
泥つるをあまあまのく 徳
元とけしきまをくるん星紀り 酉花
筆やのくまのけの物もくし 氷花

の偉句

懺あつて去るくや醫師の紋所 行病
音塚をるゆめしとあまほりか 銀杏
あらし女のまきせくあまの川の支 彫棠

新集山

肩衣くまを安の機や山 櫛 奇風
せいらあも靴の敷えと衣は昏 思演
あまのや指のあまのく酒 木奴
新肉の志るくも青よあまの 酉花

人心いづこもけりしるり凡烟 岡指
 星あらしの離れの舟を焼く人 山嶺
 以灯と煙をあらはるる所の川 暮子
 舟を舳きつひつとあれたるむ 秋色
 以つらもくよの気くまきえ衣 思演
 了きもや 蛭の血ぬくふ苗糸 弥子
 糸とせもくらく女ものや 般の髪 松吟
 鄭切しや世後も異々こい 以て人 葛家
 女のたふさるるもあらんま 兼凡 夕秋

山さる山椒くこよ火煙 角上
 人 近お樗のむや村のまの 介我
 ころもや 時よ伊吹のゆが 千那
 追もてく 鳴くせり夕ひとを 翠袖
 ゆよわのこを所まこすりり 堤亭
 約まの木るや出んがらの月 去来
 新所 亭
 野新もちまふまうくら 城の陰 正秀

○麗句

文そそなくはよもあし一糶五把 嵐雪
 我あはれ蛇の影見るつそあは 孫子
 後あましくいん楊のらりゆり 彫棠
 里をより火す袋をかきり 安之
 散もむや根のせうまびあふ 晨鍾
 夜をり物金あかふる毒もあ 新色
 夢多貫よ 使子やうしてませり 黄山
 川ゆやちるういする舟の影 膳羅

山はくく少おくゆさつあ模様 野風
 なてくくこく權のまや笠の内 控山
 杉あおあ子苗の菊田のまき 一雀
 もらのせや木尻を菫のあ合せ 沾徳
 原のましく老らうましく立隠し 彫棠
 石川や築くつ時のるる 枕鄰
 涼み魚の末とあふ 紫取
 白魚やみかちりき 佃島 拙山
 房少や星のこあしりあり 素才

石竹の移りゆくはゆきよの月世に
 舞ふ人ありをり蔓くもり 山川
 網川の海をこきつとわのゐ一雀
 けするもををけとや猿く葛うつ 彫棠
 けの半く見すわく入くは正確 思演
 名月ありはよりや柿の刻るはと 角上
 池入 象形く白牡丹 柳玉
 蓮のまや衣裳ありくくしひは 虎琴
 藤の家つ竹あり長月あり 未陌

る士のゆきと鯉ありと及者うふ 松吟
 鯉もあつて鯉のまこといひはす
 次ていひはす
 日比ある門をりぬるま念佛介我

病中寄

と繁や海ありくくは魂追 山川
 古のまは海にうつや冷乃森 拙山
 け苔房やのくく魚ありを 牡丹
 名くくやあるの都見る西瓜り 一江
 川越や蚤ありわくく 横田川 彫棠

涼も不我くもあつせぬ子せし 野風
角巻てはのふゆはあつせぬ 一境
うつく日を漂ふうけしる 思演
唯所也物あつせぬあつせぬ 節水
あらとあつせぬ島を海に山つて 野梅

舞中

あつせぬあつせぬあつせぬあつせぬ 拙
舟漕中先小をつるあつせぬあつせぬ 戸牧
あつせぬあつせぬあつせぬあつせぬ 杉風

豪句

六月四日 家々々々々々々々 芭蕉
あつせぬあつせぬあつせぬあつせぬ 湖夕
卯のもよ草毛乃るあつせぬあつせぬ 許六
山鳥の尾みんあつせぬあつせぬ 曲翠
あつせぬあつせぬあつせぬあつせぬ 野梅
あつせぬあつせぬあつせぬあつせぬ 湖風
母の墓みあつせぬ
家新やあつせぬあつせぬあつせぬ 秋色

初長秋の積りよも凡しおそき
 一節乃乳の毛戸命あまの
 以ちのや井筒の雪あ神のあ
 故を説子蘭の如かる白く
 ひろくや暑い盛も花乃後
 二十のおらねと戸鯉舟
 氣をとりい先いさへし山さ
 わく舟舟賃ありて涼をさ
 夜所の水をあきりし籠の
 彫崇

老人の漆のうんや
 門をさるを遊すふら
 かくわりの目やこ
 海をもあはれりる
 貝をよほのく
 應くといと敲くや雪の門
 神故
 況長
 香吟
 介成
 彫崇
 去来

人どりく得をれ雨るあらしの雲と
凌ぎ水よのそとけらしの眼前に影ひ
幽妙と探る志は等しけりさ致と
句乃と小く是と人海はあらしぬ工なら
も此は是下よけしる玉城指を原しと
心と穿ら海より入ふ又その中よりむ
ろくそとねりよもの安く目よんは深
形承りんと此を備へて拾いさる人よ

行^キ當^ラる^ルことし 是に原詩本歌乃要
と見えし一宵と詠ひていく^ク行^キ侍^シ
子を六^ハ一度花^ハといふと行^キ侍^シ子色^シ
一葉花^ハといひ見^ル徹^ク林下何^レ方^ニ見^ル
一人^トといふ^ハふみ^ミまた^ハ花^ハを^ハ守^リ出^テ得^ル此^レ
地^ニ誰^レを^ハ一人^ト勇^ム句^ノ中^ノの^ノ宗^ノ若^クも^ハ
揚^リる^ル人の^ノ愛^シめ^ルも^ハ魚^ノ又^ハさ^ハら^ハ又^ハ
ふま^ハに^ハ行^キや^ハら^ハり^ハる^ルを^ハさ^ハら^ハり^ハ句^ノ

志^ハか^ハる^ルの^ノ浦^ノと^ハあ^ハら^ハに^ハ志^ハ智^ハる^ルら^ハり^ハや
遠^クし^ハり^ハ行^キは^ハり^ハと^ハ奈^レ珠^ノと^ハ出^ルる^ルの^ノ
月^ハ也^ハ露^ハの^ノ先^ハも^ハ是^レ今^ノ詩^ノ詞^ノ
外^ニに^ハ采^リは^ハり^ハと^ハ風^ハを^ハい^ハる^ルに^ハ
物^ハを^ハ入^レを^ハ原^ノ交^ハ干^ハハ^ハ海^ノの^ノ立^レ田^ノの^ノ
急^ハ海^ノも^ハり^ハか^ハり^ハ小^ノ木^ノの^ノ系^ハら^ハり^ハ後^ハに^ハ
讀^ミ可^ク是^レを^ハ叔^ノ父^ノ業^ノ乎^ハ此^ノ方^ノと^ハも^ハる^ルに^ハ
は^ハく^ハる^ルの^ノ曲^ノか^ハり^ハ境^ノと^ハか^ハり^ハ詩^ノ

句下

夕乃從撲傾倒自侍のうらうら
ゆゑの義物成へしうらよき巻のくま
た交ゆとて中將の孫子音子の十
九入此連枝也兄とてうら句とて
ほく歩乃乃上理ぬりて見ゆ極ま
るうとせとほぬんく活活記

三十八

東寺町二条上町

井筒屋庄巻枝

